

全てを網羅するDOHaD の日本語名称はあるか？

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2016-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中野, 有也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2949

全てを網羅する DOHaD の日本語名称はあるか？

中野有也

昭和大学医学部小児科学講座

「DOHaD って何?」「日本 DOHaD 研究会の活動内容がわからない」「DOHaD の読み方がわからない」など、DOHaD の名称が一般の人にとってわかりにくい名称であることは想像に難くない。そもそも DOHaD にぴったり該当する日本語はない。しかもこの研究に関わる分野は多岐にわたっており、どこに注目するかで DOHaD のイメージは大きく変わらう。関係する診療科だけでも産婦人科、新生児科、小児科、内科（循環器科、内分泌科、腎臓科など）とライフコースの長期にまたがっており、臨床科以外に関わる分野としても発生学、遺伝学、解剖学、生化学、生理学、環境学、栄養学、食品学、畜産学、人類遺伝学など、その守備範囲は広い（図 1）。多分野にまたがる臨床家や研究者、また一般の方にまで DOHaD 仮説や当研究会の活動を認知してもらうために受け入れられやすい日本語名称とはどのようなものであろうか。

釈迦に説法ではあるが、DOHaD 仮説とは「発達過程（胎児期や生後早期）の低栄養をはじめとした様々な環境により、将来の健康と疾病のリスクが決定する」という概念である。このなかで、DOHaD 仮説を説明するうえで核心となるキーワードは「発達過程」「胎児期」「生後早期」「発達期」「(成育) 環境」「健康と疾病の起源」などであろう。しかし、DOHaD 仮説の内容を正確に日本語名称にしようと、これらの用語を使用した日本語名称案を考えていくと、正確さを求めれば求めるだけ名称が面長となってしまうことに気付く（図 2）。例えば、DOHaD を「胎児期疾病発症起源説」という日本語名称としてみる。当然感受期は胎児期だけではないので、発達期とか生後早期いう用語をいれたくなるが、「発達期疾病発症起源説」では一般の人にはむしろわかりにくくなってしまいかもしれない。疾病発症起源というのにも異論が出る可能性がある。DOHaD 仮説では、疾病リスクだけではなく、環境の適合度によって健康になったり疾病リスクが増したりするという概念である。そうすると、「胎児期から始まる健康と疾病の起源説」などになるだろうか。このように用語の正確性を求めればどんどん日本語名が長くなってしまいう傾向があるのである。日本 DOHaD 研究会の名称が「日本胎児期から始まる健康と疾病の起源説研究会では、やはりあまりセンスの良いネーミングとは思えない。DOHaD を正確に表す日本語の短い用語がない以上、どこまで正確性を求めるのか、わかりやすさを重視してやや不正確であったとしても許容するのか、考えなくてはいけない。

正確性を求めないということであれば、臨床家の立場で考えると、「疾病の予防」という大きなテーマ（目標）を掲げた日本語名称にしてもよいのではないかと思う。例えば「胎児期からの疾病予防研究会」とか「疾病予防のための成育環境研究会」などとすれば、この研究会が何をやっているか一般の人からも受け入れられやすいのではないだろうか（図 3）。それでも、名称が長いというのであれば、思い切って今年の学術集会のテーマでもあった「先制医療研究会」としてもよいと思う。ただ、そのような名称の場合、あまりにも疾病予防に重点を置きすぎて、多分野の研究者が関わるこの分野を表すのに適切ではないとお叱りを受けるかもしれない。また、DOHaD を知らない一般の人には受け入れられやすくなるが、逆に DOHaD をすでに知っている人にとっては、DOHaD とその日本語名称および研究

会名がつながりにくいという問題点も出てくるかもしれない。例えば、「日本 DOHaD・疾病の起源と予防研究会」というように、名称内に DOHaD を残して併記することも選択肢だが、その場合もやはり面長になってしまうのは避けられない(図 4)。

私の私見としては、やはり全てを網羅する、すなわち①短くてわかりやすく (一般の方にも理解しやすく)、②DOHaD の概念を正確に表現しており、③DOHaD 研究のもつ多様性を表すような、日本語名称を設定することは非常に難しいと言わざるを得ない。学術的に正確な日本語名称を考えれば用語が面長になるのは避けられず、日本語名称の設定や研究会名変更によどのような意義を見出すのか、将来の研究会の方向性を考えた場合に何を優先すべきなのかを検討する必要があるものと思われる。

<p>図1 DOHaDに関連する分野は幅が広い</p>	<p>図2 正確性を求めると名称が長くなる</p> <p>胎児期 成人病発症起源 説 研究会</p> <p>コンポーネント1 コンポーネント2</p> <table border="0"> <tr> <td>胎生期</td> <td>疾病発症起源</td> <td>日本胎内環境疾病発症起源説研究会</td> </tr> <tr> <td>発達期</td> <td>健康起源</td> <td>日本胎児期および発達期健康と疾病起源説研究会</td> </tr> <tr> <td>胎児期および発達期</td> <td>健康と疾病起源</td> <td>研究</td> </tr> <tr> <td>胎児期から始まる</td> <td>健康と疾病リスク決定</td> <td>日本発達期健康起源説研究会</td> </tr> <tr> <td>胎内環境</td> <td>健康と疾病リスク影響</td> <td>日本胎児期から始まる健康起源説研究会</td> </tr> <tr> <td>胎内環境から始まる</td> <td>体質決定</td> <td>日本胎児期から始まる健康と疾病起源説研究会</td> </tr> </table>	胎生期	疾病発症起源	日本胎内環境疾病発症起源説研究会	発達期	健康起源	日本胎児期および発達期健康と疾病起源説研究会	胎児期および発達期	健康と疾病起源	研究	胎児期から始まる	健康と疾病リスク決定	日本発達期健康起源説研究会	胎内環境	健康と疾病リスク影響	日本胎児期から始まる健康起源説研究会	胎内環境から始まる	体質決定	日本胎児期から始まる健康と疾病起源説研究会
胎生期	疾病発症起源	日本胎内環境疾病発症起源説研究会																	
発達期	健康起源	日本胎児期および発達期健康と疾病起源説研究会																	
胎児期および発達期	健康と疾病起源	研究																	
胎児期から始まる	健康と疾病リスク決定	日本発達期健康起源説研究会																	
胎内環境	健康と疾病リスク影響	日本胎児期から始まる健康起源説研究会																	
胎内環境から始まる	体質決定	日本胎児期から始まる健康と疾病起源説研究会																	
<p>図3 思い切ったネーミングを考えてもよい…?</p> <p>必ずしもDOHaD仮説をそのまま訳さなくてもよい? 「疾病の予防」という方向性を示すのはどうか? より一般の人に活動内容が受け入れられやすい研究会名</p> <p>胎生期からの疾病予防研究会 胎生期からの体質改善研究会 疾病の起源と予防研究会 疾病予防のための成育環境研究会 先制医療研究会</p>	<p>図4 DOHaDを残して併記は？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本DOHaD・胎生期からの疾病予防研究会 • 日本DOHaD・胎生期からの体質改善研究会 • 日本DOHaD・疾病の起源と予防研究会 • 日本DOHaD・疾病予防のための成育環境研究会 • 日本DOHaD・先制医療研究会 																		

【略歴】

学歴

2003 年 3 月 昭和大学医学部卒業
2009 年 3 月 昭和大学大学院小児科博士課程修了 (医学博士)

職歴

2003 年 4 月 昭和大学小児科学教室入局 昭和大学病院小児科勤務 (員外助教)
2004 年 4 月 町田市民病院小児科勤務
2005 年 4 月 昭和大学横浜市北部病院こどもセンター勤務
2007 年 7 月 千葉県こども病院 新生児未熟児科勤務
2009 年 1 月 昭和大学病院小児科 新生児集中治療室勤務 (員外助教)
2010 年 7 月 昭和大学病院小児科 新生児集中治療室勤務 (助教)

研究領域

小児科学、新生児学、栄養学、DOHaD